

やはぎエコレポート2023

発行 : 矢作建設工業株式会社
安全環境品質本部 安全環境部

目次	1
1 エコレポート2023作成基本事項	2
2 会社概要	2
3 環境方針	2
4 行動指針	2
5 環境マネジメントシステム	
○環境マネジメントシステム管理体制	3
○環境マネジメントシステムの状況	3
○環境法規制の遵守状況	3
○環境目的・目標及び達成状況評価	4
○環境対策への取組み	
【地球温暖化への取組み】	7
【建設副産物対策への取組み】	8
【その他の取組み】	9
①グリーン購入	
②オフィスの環境活動	
6 マテリアルフロー	10

1. エコレポート2023作成基本事項

- ア. 対象組織：矢作建設工業株式会社
- イ. 対象期間：2022年度（2022/4/1～2023/3/31） 但し、一部対象期間前後の情報も含まれています。
- ウ. 対象分野：対象組織の環境活動を記載しています。
- エ. 作成部署及び連絡先： 安全環境品質本部 安全環境部
- オ. ホームページのURL： <https://www.yahagi.co.jp/>

2. 会社概要（2023年3月31日現在）

- ア. 会社名：矢作建設工業株式会社
- イ. 代表者：取締役社長 高柳 充広
- ウ. 創立：1949年5月14日
- エ. 従業員数：889名（2023/3/31現在）
- オ. 資本金：68億8百万円
- カ. 売上高：940億52百万円
- キ. 事業内容
 - 1. 土木、建築、その他建設工事の企画、測量、設計、監理、施工およびコンサルティングの請負
 - 2. 建物および構築物の保守管理、耐震等の診断および評価
 - 3. 環境汚染物質の調査および除去に関する企画、設計監理およびコンサルティング
 - 4. 道路、鉄道、庁舎、教育文化施設等の公共施設等の企画、建設、保有、維持管理および運営
 - 5. 不動産の売買、賃貸、仲介、管理ならびに不動産投資に関するマネジメントおよびコンサルティング
 - 6. 前各号に附帯関連する一切の事業

3. 環境方針

※2022年4月1日 改定

矢作建設工業は、建設エンジニアリングによる価値創造を通じて、多様化する社会のあらゆる分野に新しい価値を提供し、「持続可能な社会の実現」に向け活動する。

4. 行動指針

※2022年4月1日 改定

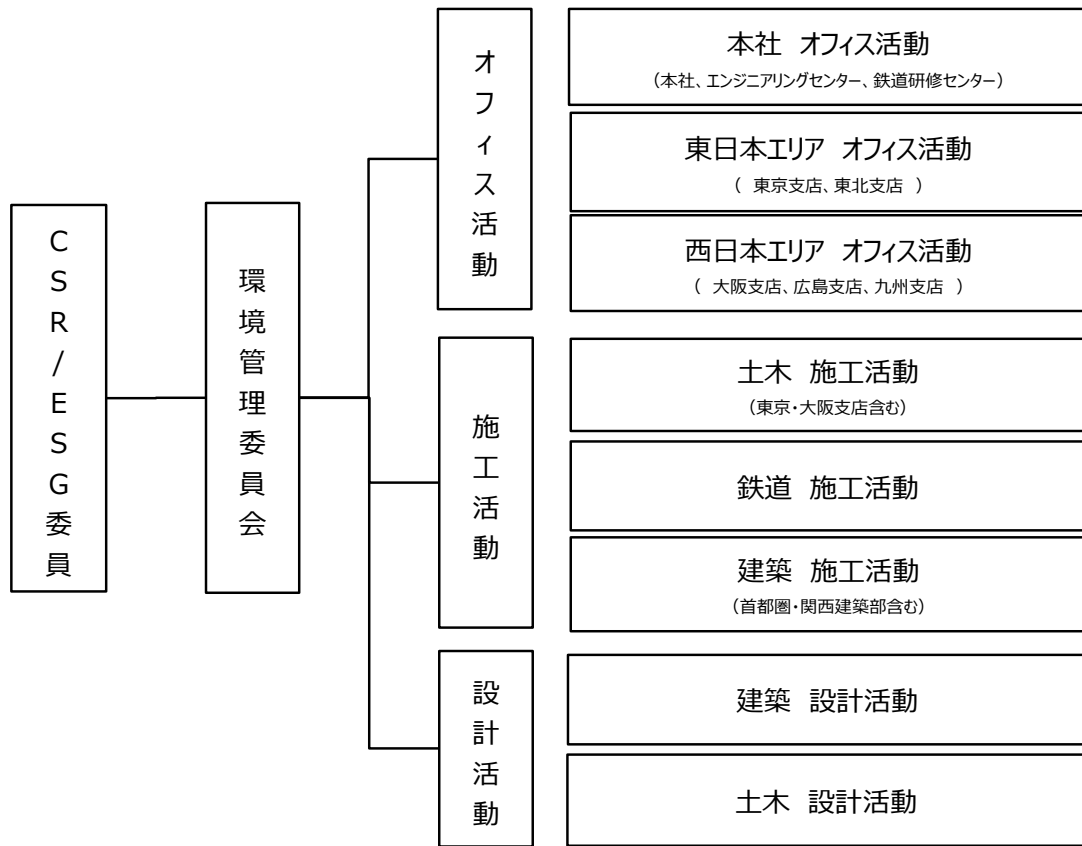
矢作建設工業は、『環境方針』に基づいた経営を推進するため、以下の活動に継続的に取り組む。

- 1. 建設における優れた技術によって環境に配慮した建設物やサービスの提案・提供を推進する。
- 2. 建設の過程や建設物のライフサイクルの中で、地球環境の保全、生態系との共存、資源の有効利用、CO₂の削減、省エネルギー・省資源など、環境負荷の低減を目指す。
- 3. 環境に関する法令、当社が地域社会・顧客等と同意した要求等の順守義務を満たす。
- 4. 気候変動や脱炭素社会への移行等に伴う「リスク」と「機会」を分析し、事業リスクの最小化と機会の最大化を目指す。
- 5. 環境マネジメントシステムを確立し、実施し、維持し、継続的改善を図る。

5. 環境マネジメントシステム

○環境マネジメントシステム管理体制

2023/9/30現在



○環境マネジメントシステムの状況

2023/9/30現在

登録番号	RE0138	規格	ISO 14001 : 2015 (JIS Q 14001 : 2015)
関連事業所	本社（監査室、経営企画部、コーポレート本部、安全環境品質本部、不動産事業本部、土木事業本部、建築事業本部、営業統括本部） エンジニアリングセンター 東京支店、東北支店 大坂支店、広島支店、九州支店		
活動、製品及びサービスの範囲	建築物の設計、工事監理及び施工 土木構造物の設計、工事監理及び施工 軌道の設計及び施工		
登録日	2000/8/1	登録機関	一般財団法人 建材試験センター
更新日	2021/4/1	有効期限	2024/3/31

2000年8月 1日 ISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得

2017年8月 1日 2015年版に移行

2021年3月31日 第7回再認証登録（前倒し審査）

○環境法規制の遵守状況

2022年度は、環境に関する法令違反による行政指導等はありません。

5. 環境マネジメントシステム

○2022年度 環境目的・目標及び達成状況評価

活動種別	環境目的	環境目標	目標値	達成状況 及び 副管理責任者考察	
本社 オフィス 活動	継続的な省エネ活動の推進	① 個別空調の温度管理の徹底 (夏季28℃以上冬季20℃以下)	100%	達成	空調・LED照明の更新、個別空調の温度管理徹底、通年での軽装の実施、不要照明の消灯監視、セントラル空調の稼働時間短縮を目標通り100%実施し、電力使用量は前年度比5.8%減少した。
		② クールビズの運用の周知	100%	達成	
		③ 不要照明の消灯を監視	100%	達成	
		④ 20時以降の個別空調一旦停止	100%	達成	
	環境に配慮した製品（事務用品）の優先購入の促進	① 環境配慮製品の優先購入の推進 インフォメーションでの周知	100%	達成	環境配慮製品の優先購入の推進、「合法木材使用製品の優先購入、詰め替え環境配慮製品の使用についての周知（毎月）を目標値通り100%実施し、環境配慮製品購入比率は、84.6%となった。
		② 合法木材使用製品の優先購入 インフォメーションでの周知	100%	達成	
③ 詰め替え環境配慮製品の使用を 心掛ける、インフォメーションでの周知		100%	達成		
東日 本 オ フ ィ ス 活 動	継続的な省エネ活動の推進	① 個別空調の温度管理の徹底 (夏季28℃以上冬季20℃以下)	100%	達成	フロア担当者を中心に省エネ活動を推進している。各フロアの消灯活動や働き方改革による業務時間の減少などにより前年度比4.2%の減少とすることができた。
		② 不要照明の消灯を監視	100%	達成	
		③ 節電について社内インフォメーション等で周知を図る	100%	達成	
	環境に配慮した製品（事務用品）の優先購入の促進	① 環境配慮製品の優先購入の推進	100%	達成	日頃から優先購入を徹底している。環境配慮製品購入比率は、87.9%の状況である。
		② 合法木材使用製品の優先購入	100%	達成	
		③ 詰め替え環境配慮製品の使用を 心掛ける	100%	達成	
西日 本 オ フ ィ ス 活 動	無理なく長く続けられる省エネ活動の推進	① 個別空調の温度管理の徹底 (夏季28℃以上冬季20℃以下)	100%	達成	継続的な啓蒙活動により達成。個別空調の温度管理と退出時の消灯活動を徹底して行ったため、前年度より2.2%減少となった。また特徴として、2022年度は年間を通じて気温が高く、夏期は冷房による使用量が増加、冬期は暖房の使用が減少
		② 総務部主導で「節電について」 周知活動	100%	達成	
		③ 「月次使用量及び節電呼び掛け」 標語掲示	100%	達成	
	環境に配慮した製品（事務用品）の優先購入の促進	① 環境配慮製品の優先購入の推進 Webカタログから環境配慮製品を 選択	100%	達成	環境に配慮した製品の優先購入の推進 実施率100%実施。 環境配慮製品購入比率は83.3%となり 目標値 83.0%を達成した。
		② 合法木材使用製品の優先購入 SFC等のマークのある紙製品等を 推奨	100%	達成	
		③ 詰め替え環境配慮製品の使用を 心掛ける、インフォメーションでの周知	100%	達成	
	SDGsの推進と地域貢献活動への参加	① SDGs行動目標の実施・職員への 通知	100%	達成	SDGs 行動目標の職員への周知と実施 KPI目標値の解説・社内掲示物による啓蒙 活動。公園清掃活動を実施、地域防災訓 練・講習会への積極的な参加。
		② 地域清掃活動への参加	1回/月	達成	
	業務書類の電子化、簡素化、削減	① 業務書類（控え）のペーパーレス化及びリスト化	1回/月	達成	

○2022年度 環境目的・目標及び達成状況評価

活動種別	環境目的	環境目標	目標値	達成状況 及び 副管理責任者考察	
土木設計活動	環境に配慮した設計の推進	「SDG s 評価シート」による環境提案 10,000㎡以上の造成等の計画・ 実施物件に おける環境提案	「SDG s 評価シート」 7項目以上	達成	「SDG s 評価シート」による環境提案については「豊田市竹町北田宅地造成」「FK-K豊田市福受町開発」の2件について、SDG s 環境配慮設計チェックシートにより確認し、全案件で7項目以上の提案を行った。
本社土木施工活動	カーボンニュートラルの実現に向けた取組み	燃費基準達成機械使用率	10%以上	未達	2022年度は、各作業所の実績データをとり企画部にて集計した。燃費基準達成機械使用率24.0%となり目標値の10%を上回る使用状況であった。協力会社所有の燃費達成基準機械の普及しつつある。
東日本土木施工活動	1 SDG s の活動に対する全職員の意識向上	① 削孔水の再利用	再利用現場50%	達成	今期は公衆災害・労働災害は「0」件であった。また、品質事故・環境災害についても「0」件であり、目標を達成できた。 "FaceTime"を活用して安全パトロールを「2回/月」実施し、協力会社の教育についても講習会を「1回/年」実施した。有効な活動であることが確認できたので、今後も活動を継続し、災害発生「0」を維持する。
	2 環境保全の向上	① 汚濁水の流出防止	流出事故 0件	達成	
		② プラント洗水の管理 (濾過確認とPH管理)	実施 100%	達成	
西日本土木施工活動	1 労働・環境災害発生の抑止と規定品質の確保、工程の順守	① 元請けと連携した自然災害・環境災害への防災・減災および環境保全対策の実施	環境災害 0件	達成	インフラ設備の事前調査、公衆災害に対する具体的な予防対策を施工検討会にて提起し、その実施をパトロール等を通じて確認した。災害発生「0」と合わせ、今期の取り組みは達成することができた。来期も災害発生「0件」を目指して取り組む。 指導員による安全パトロール時にアイドリングストップ実施状況、汚濁水の処理方法を確認した。パトロール実施17回で100%確認した。
	2 職場環境の整備とSDG s 取組推進	① 環境配慮型機器の使用とアイドリングストップ励行	PTで確認100%	達成	
		② 現場で発生した汚濁水等の適正処理	PTで確認100%	達成	
鉄道施工活動	SDG s に即した施工の省人・省力化、機械化の推進	環境(騒音・振動)に配慮した施工機械・仮設備等の情報収集を行い、導入(開発)に向けた検討を行う	1件以上	達成	労働者への安全性の向上や労働力不足の対応した環境に配慮した技術開発のうち、「道床バラスト締め機械(ドットタンパー)を開発。騒音、歩掛等のデータを収集している。

○2022年度 環境目的・目標及び達成状況評価

活動種別	環境目的	環境目標	目標値	達成状況 及び 副管理責任者考察									
建築設計活動	環境に配慮した設計の推進	CASBEEによる環境提案	2,000㎡以上のマンション建築実施物件におけるA-ランク以上2件 B+ランク以上80%以上	達成	2022年度、CASBEEによるマンション物件の環境提案は達成率が100%と20㎡以上上回り目標をクリアできた。7物件が対象となった。内訳は環境提案A-評価2物件のところA評価が3物件、B+以上が全体の80%のところ他全4物件において目標を上回ることが出来た。一般新築物件(S造)においても公的評価評価を行う目標を掲げたが、こちらも2000㎡を超える全物件(10件)においてクリアすることが出来た。								
			2,000㎡以上の一般建築物(新築)実施物件における環境評価を行う	達成									
本社建築施工活動	ESG・SDGsに向けた企業活動への取組 82期の数値目標(KPI)周知徹底と目標達成への取組	① 建設副産物の削減と再生利用(再資源化等)	コンガラ等93%以上 木くず90%以上 建設汚泥93%以上 建設発生土80%以上	達成	<p>本社建築では、場内での分別回収及び適正処理を推進しリサイクル率の向上に努め、達成することが出来た。</p> <table border="1"> <tr> <td>コンガラ・アスガラ</td> <td>99.86%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>95.03%</td> </tr> <tr> <td>建設汚泥</td> <td>99.91%</td> </tr> <tr> <td>建設発生土</td> <td>100.00%</td> </tr> </table> <p>建設混合廃棄物 2.39% (1,133.7t/47,402.0t)</p>	コンガラ・アスガラ	99.86%	木くず	95.03%	建設汚泥	99.91%	建設発生土	100.00%
		コンガラ・アスガラ	99.86%										
木くず	95.03%												
建設汚泥	99.91%												
建設発生土	100.00%												
② 分別による建設混合廃棄物の削減	3.5%以上	達成											
東日本建築施工活動	ESG/SDGsに向けた企業活動への取組 重大な環境災害発生防止への指導 環境配慮を意識した提案などの強化	① 過去の災害事例をピックアップしPT時に確認指導	100%	達成	<p>工事特性要因を踏まえた環境目標を策定し、リスク抽出と対策を樹立し実施する事で環境災害発生「0」を達成することが出来たが、下期に「電柱3本破損、フェンスその他損傷」(周辺地域停電約200件)の重大な公衆災害が1件発生した。来期は労災・公衆災害・環境災害と全ての災害発生「0」を目指し、工事事前会議等で発生の恐れのある類似災害事例の再周知と安全環境PT時にリスクの抽出及び対策の実施状況を確認指導を継続する。</p>								
		② 地域活動への参加、周辺道路の清掃活動等の現場運営をPT時に確認・指導	100%	達成									
西日本建築施工活動	1 労働・環境災害発生の抑止と規定品質の確保、工程の順守	① による問題点の抽出、予防措置の実施計画説明会の実施	環境災害 0件	達成	<p>本社合同での計画説明会・計画審査会を開催し、問題点を抽出し、予防措置対策を立て、現場パトロール時に実施状況を確認し問題はなかった。また、月初めに、過去類似災害事例を確認し、各現場で予防対策をたてて実施した。環境災害・公衆災害は0件であった。</p>								
		② 過去災害事例を再検討し、その対策を現場に反映する											
③ 施工GMと安全担当による現場巡視の強化													
2 職場環境の整備とSDGs取組推進	① 建設副産物の削減と再生資源利用率の目標値	コンガラ 90%以上 木くず 90%以上 アスガラ 90%以上	達成	<p>産廃処分場の事前調査を行い、問題のない産廃処分場へ産廃の搬出・処分を行った。再生資源利用率は、コンクリートガラ：100%、アスファルトガラ：100%、木くず：95.8%であった。上記の通り、今期の環境目標は、達成することができた。</p>									

5. 環境マネジメントシステム

○環境対策への取り組み

【CO2排出量 実績】 2022/4/1～2023/3/31

2022年度 実績

	サンプル数 ^{※1} 作業所	Scope1 ^{※2} (燃料の消費) t-CO2	Scope2 (電力の使用) t-CO2	発生原単位 t-CO2/億円
全社	72	11,780.0	997.6	17.6 ^{※3}
土木施工	22	4,305.6	340.3	46.5
鉄道施工	5	215.2	5.1	23.8
建築施工	35	4,799.7	443.2	11.0
東日本	3	1,081.3	27.0	36.7
西日本	7	1,378.2	182.0	14.2

※1 下請け・JVサブ工事を除く工期が2か月以上の工事の中から抽出

※2 日建連の集計方法に則り、作業所で稼働する重機及び産廃・土砂の場外排出の運搬車両によるもの

※3 全社の1億円当たりの排出量は、各部門で発生した排出量の加重平均

過去の排出実績との比較（発生原単位）

(t-CO2/億円)

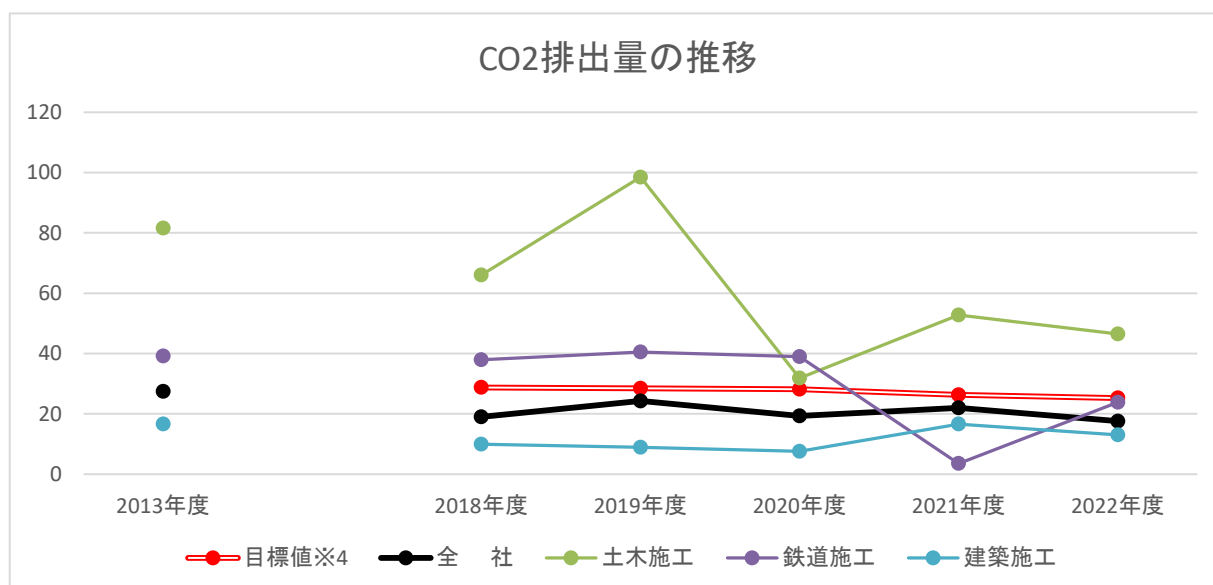
	2013年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2013年度 比較	削減率
目標値 ^{※4}		28.7	28.4	28.1	26.3 ^{※5}	25.2 ^{※5}		40%
全社	27.4	19.0	24.3	19.4	22.0	17.6	-9.8	36%
土木施工	81.6	66.0	98.5	31.9	52.7	46.5	-35.1	43%
鉄道施工	39.2	38.0	40.5	39.0	3.5 ^{※6}	23.8	-15.4	39%
建築施工 ^{※7}	16.7	10.0	8.9	7.6	16.6	13.1	-3.6	22%

※4 日建連の「建設業の環境自主行動計画 第6版」での施工におけるCO2の排出抑制 目標1990年度基準20%削減

※5 日建連の「建設業の環境自主行動計画 第7版」での施工段階におけるCO2の排出抑制 目標 2030年までに40%削減を基準とし、当社2013年度排出量をもとに毎年の目標値を算出（当社 16.4 t-CO2/億円 以下）

※6 鉄道施工は、2021年度より集計方法を変更（エリア事務所での排出量を別途集計に変更）

※7 東日本支社建築及び西日本支社建築分を含む



・気候変動関連の情報については弊社ホームページ「https://www.yahagi.co.jp/csr/information_disclosure/」を御確認ください

5. 環境マネジメントシステム

○環境対策への取組み

【産業廃棄物 実績】

2022年度 部門別排出量実績

(t)	全社							リサイクル率 %
	土木	鉄道	建築	本社その他 ^{※3}	東日本	西日本		
総排出量	103,676.9	27,013.4	8,748.5	51,036.6	218.4	6,667.5	9,992.5	96.5
コンから	50,477.4	8,364.4	835.9	34,989.6	208.8	5,002.4	1,076.3	99.9
アスから	7,379.3	5,135.0	233.8	1,931.1	0.0	36.1	43.4	99.1
その他がれき	10,154.8	1,520.0	6,501.1	1,677.6	0.0	103.1	353.0	91.5
ガラス・陶磁器くず	512.1	91.8	26.0	284.8	1.5	105.0	3.0	52.0
廃プラスチック	1,314.9	417.7	40.1	720.5	3.5	83.9	49.2	62.7
金属くず ^{※1}	272.1	125.7	16.4	119.3	0.0	9.0	1.7	99.7
建設汚泥	26,503.0	9,950.1	0.0	7,855.3	0.8	879.4	7,817.4	98.8
紙くず	193.3	17.6	6.8	166.5	0.3	2.1	0.0	92.1
木くず	3,135.8	1,224.6	1,078.1	625.8	3.3	157.5	46.5	97.9
繊維くず	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	100.0
廃石こうボード	607.5	0.0	0.0	411.4	0.2	69.3	126.6	95.9
混合（安定型）	24.9	2.7	3.6	8.5	0.0	10.1	0.0	77.0
混合（管理型） ^{※2}	2,147.3	158.5	6.8	1,383.7	0.0	128.8	469.6	72.4
石綿含有廃棄物	885.8	5.4	0.0	808.5	0.0	66.0	5.9	0.0
廃石綿	21.0	0.0	0.0	8.4	0.0	12.6	0.0	0.0
廃蛍光灯・水銀灯	2.7	0.1	0.0	2.5	0.0	0.2	0.0	71.2
廃油・廃アルカリ等	44.8	0.1	0.0	43.1	0.0	1.7	0.0	11.5

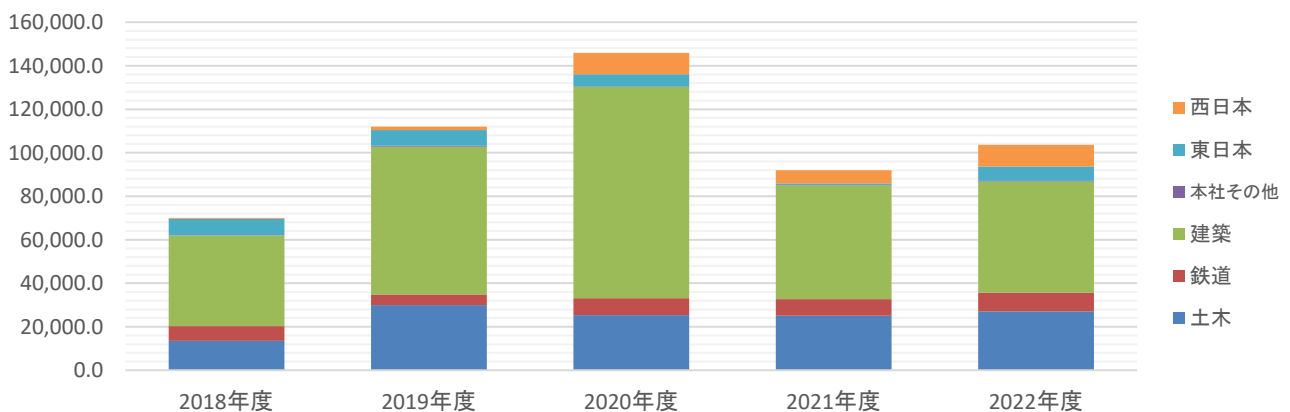
※1 廃電気機器含む

※2 燃え殻含む

※3 エンジニアリングセンターや総務部等

産廃排出量の推移

(t)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総排出量	70,013.1	112,031.1	145,824.4	91,980.7	103,676.9
土木	13,532.0	30,015.0	25,410.0	25,108.0	27,013.4
鉄道	6,822.0	4,846.0	7,663.0	7,555.7	8,748.5
建築	41,599.0	67,926.0	97,392.0	52,343.1	51,036.6
本社その他	87.1	430.1	6.4	107.7	218.4
東日本	7,627.0	7,216.0	5,631.0	823.8	6,667.5
西日本	346.0	1,598.0	9,722.0	6,042.4	9,992.5



5. 環境マネジメントシステム

○環境対策への取組み

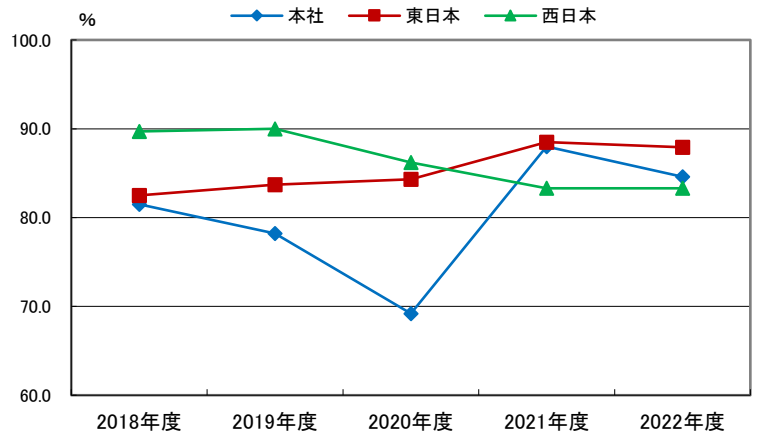
【その他の取組み】

①グリーン購入

『オフィス部門』

事務用品の購入点数の内の“環境に配慮した製品”の割合 (%)

	本社	東日本	西日本
2018年度	81.5	82.5	89.7
2019年度	78.2	83.7	90.0
2020年度	69.2	84.3	86.2
2021年度	88.0	88.5	83.3
2022年度	84.6	87.9	83.3



『施工部門』

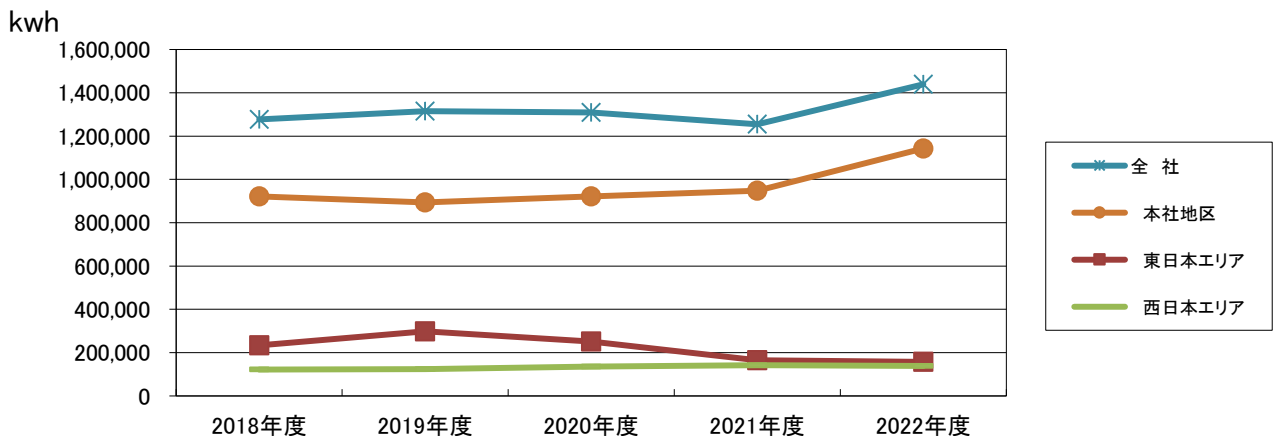
分類	グリーン購入				
盛土・埋戻材	建設発生土	805,093	m ³	他現場での掘削土の搬入	
	場内再利用	42,551	m ³	場内掘削土を仮置きし埋戻し土として再利用	
生コンクリート	低炭素コンクリート	5,674	m ³	高炉生コンクリート	
骨材	リサイクル砕石	10,062	m ³	コンクリートガラのリサイクル処理施設から搬入	
鋼材	電炉鉄筋	16,909	t	主に鉄スクラップ（金属くず）を原料とする鋼材	
	電炉鋼材	17,766	t		

②オフィスの環境活動

『電気使用量の削減』

※ 前年度比はエンジニアリングセンター、軌道センターを除く

kwh	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比	
全社	1,277,617	1,315,800	1,308,774	1,254,545	1,439,261	※94%	
本社地区	921,491	893,756	920,767	948,158	1,142,976	※93%	☆空調・LED照明の更新、個別空調の温度管理徹底、通年での軽装の実施
菱センタービル	893,386	861,923	875,049	900,954	848,645	94%	
エンジニアリングセンター					199,756	-	
軌道センター					59,463	-	中部鉄道事務所・研修センター含む
西部鉄道事務所	13,972	14,325	21,432	17,742	17,111	96%	
東部鉄道事務所	14,133	17,508	24,286	29,462	18,001	61%	
東日本エリア	234,253	298,477	251,665	164,308	157,352	96%	☆フロア担当者を中心に省エネ活動を推進
ヤマガタビル	223,723	287,884	240,589	153,391	146,151	95%	
東北支店	10,530	10,593	11,076	10,917	11,201	103%	
西日本エリア	121,873	123,567	136,342	142,079	138,933	98%	☆個別空調の温度管理と退出時の消灯活動を徹底した
ヤマガタ天満橋ビル	99,078	97,681	111,743	113,679	113,567	100%	
広島支店	10,551	11,453	12,580	12,883	12,149	94%	
九州支店	12,244	14,433	12,019	15,517	13,217	85%	



6. マテリアルフロー

マテリアルフローとは建設行為に伴う物質の出入りを可視化した図表で、データのカテゴリには詳細を述べたページを記しています。

投入
エネルギー
資材

オフィスの投入エネルギーなど ⇒P 9		
電気	1,439,261	kwh
使用資材		
鉄骨	17,766	t
鉄筋	16,909	t
生コンクリート	129,592	m ³

事業活動
施工
改修
解体
設計
技術開発
オフィス活動

事業活動成果量 ⇒P 2		
矢作建設施工量	94,052	百万円

リサイクル

再資源化量		
コンクリート	50,403	t
アスファルト	7,312	t
金属くず	283	t
建設汚泥	19,456	t
木くず	2,446	t
廃石膏ボード	582	t

排出 温室効果ガス
建設副産物

施工で発生した温室効果ガス⇒ P 7			
全社	17.6	t-CO2/億円	
建築	11.0	t-CO2/億円	
土木	46.5	t-CO2/億円	
鉄道	23.8	t-CO2/億円	
建設副産物 ⇒ P 8			
建設発生土	118,184	m ³	
建設廃棄物	103,677	t	
紙マニフェスト発行枚数	413	枚	
電子マニフェスト登録件数	17,263	件	

処分 廃棄

最終処分			フロン類回収量		
最終処分量	3,722	t	CHC、HCFC	8.2	kg
減量			HFC		
廃プラスチック類	15.5	t	石綿類 ⇒ P 8		
混合廃棄物	254.7	t	廃石綿	21.0	t
木くず	616.5	t	石綿含有建材廃棄物	885.8	t
建設汚泥他	3476.9	t			